

「日系アメリカ人と日米関係の将来」公開シンポジウム報告

日時: 2005年5月25日(水)14:00～16:30

場所: 経団連ホール

主催: 全米日系人博物館

共催: 国際交流基金(ジャパンファウンデーション)日米センター

後援: (社)日本経済団体連合会

アメリカ、ロサンゼルスにある全米日系人博物館では、日系アメリカ人に関するさまざまな展示や教育プログラム、ビデオ、出版物の作成を通して、日系アメリカ人の体験を全米、全世界に伝えていますが、この度、「愛・地球博」の日系アメリカ人関連行事に、同博物館関係者が多数来日する機会にあわせて、ジャパンファウンデーション日米センターは、同博物館との共催で、シンポジウム「日系アメリカ人と日米関係の将来」を開催しました。当日は会場をほぼ埋め尽くす400人近くの皆さまのご来場をいただきました。



会場の様子

冒頭、ご来賓の河野洋平衆議院議長はご挨拶の中で、日系アメリカ人の苦難の歴史を回顧するとともに、戦後、日系アメリカ人が日本の復興に温かい支援を差しのべた一方で、日本は日系アメリカ人に対してややもすると冷淡だったと振り返りました。日本のよき理解者である日系アメリカ人は日米両国の交流発展を考える上で大切な存在であり、今回のシンポジウムのような事業を通じて継続的に交流を深めていくことの大切さを強調されました。



河野衆議院議長

第一部:基調講演

講演者: 西室泰三 日本経済団体連合会副会長

ダニエル・K・イノウエ アメリカ合衆国上院議員

基調講演の部では、まずはじめに西室氏が、ロサンゼルス
の全米日系人博物館建設プロジェクトに対する支援や、外務省、
ジャパンファウンデーションの招へいによる日系アメリカ人リー
ダーと懇談会開催など、日本経団連として実施してきた日系ア
メリカ人との関係強化に向けた取組を紹介されました。また日
本社会は人口減少時代を迎えるが、今後移民受入を考える上
では、日系アメリカ人の先達が体験した歴史の教訓が役立つ
のではないかと述べられました。



西室日本経団連副会長

続いて演台に登ったイノウエ氏は、現在の日米関係は過去最
高とも言われる良好な関係にあり、多様なチャネルを通じて活
発なコミュニケーションが交わされているが、歴史は常に変化
するものであり、今は友人であっても、将来いつ敵同士になる
かは分からない。だからこそ、アメリカ社会の様々な分野に進
出して活躍している日系人は、今こそ日本の皆さんと手を携え
て、日米の良好な関係の維持発展のために尽くしていきたいと
思っている、と熱く語られました。



イノウエ上院議員

第二部:パネルディスカッション

モデレータ: グレン・S・フクシマ

(エアバス・ジャパン株式会社代表取締役社長)

報告者: 竹沢泰子(京都大学人文科学研究所助教授)

パネリスト: ジョージ・H・タケイ(全米日系人博物館名誉理事長)

エリック・K・シンセキ(元米国陸軍参謀長)

木全ミツ(NPO 法人女子教育奨励会理事長)

給田英哉(ジャパンファウンデーション日米センター所長)

質疑応答:

パネルディスカッションに先立ち、竹沢泰子京都大学人文科学研究所教授から、日系アメリカ人の歩みを概観する報告をいただきました。その中で、阪神淡路大震災の際には、日系人関係団体から厚い支援の手が差し伸べられたこと、またご自身が、外務省、ジャパンファウンデーション日米センターが日系アメリカ人リーダーを招へいして実施したシンポジウムにここ数年コーディネータとして関わる中で、自分達の経験を日本のために役立てたいという日系人の思いに多く触れてきた一方、アメリカ社会の中では日系の少数化が進み、祖国との関係の希薄化も進んでいることから、いま日系人とのパイプを太くすることは極めて重要なのではないかと、この報告がなされました。



パネルディスカッションの様子

スタートレックシリーズに出演した著名な俳優で、全米日系人博物館名誉理事長のジョージ・H・タケイ氏は、日系アメリカ人は、「2世、3世」のような世代ごとの呼称がある唯一のエスニック集団であるが、それは各世代が直面したアメリカにおける経験にそれぞれ特徴があり、またその時々の日米関係によって様々に影響を受けてきたからである、と述べられました。また、60年代にスタートレックで出てきたSFの技術（携帯電話、インターネットのような）が、いまや現実のものとなって、我々を一層密接に結び付けており、またアニメなど現在の日本文化に対する関心は大いに高まっており、今後の日米関係には大いに期待が持てるし、自分としても、単に日系アメリカ人、アメリカ人としてというよりは、一人の地球市民として、活発な役割を果たしていきたいと語りました。

続いて、日系人として初めて米国陸軍の最高位である参謀長の地位に就いたエリック・K・シンセキ氏は、ハワイ生まれの日系3世の自分が、どのようにして陸軍のトップになったか、それは一生懸命努力をしたことと、幸運に恵まれたからであり、また、多くの犠牲を払って家族を支えた両親のような多くのヒ

一ローの存在があったからだ」と語りました。また米陸軍と日本の自衛隊の間にも、良好な信頼関係が築き上げられ、多くの友人がいることも紹介されました。

NPO 法人女子教育奨励会理事長の木全ミツ氏は、21 世紀の重要なビジョンは「多様性」であり、日本人は、日系アメリカ人から多くを学ぶべきではないか、また市民活動の分野でも日系アメリカ人の経験は貴重であり、市民レベルの交流の促進は、これからの日米関係と日系アメリカ人の交流の鍵となる重要な要素ではないかと語られました。

給田英哉ジャパンファウンデーション日米センター所長は、91 年当時、貿易摩擦で日米関係が険悪だった折に、多様なレベルの交流を推進するため日米センターが設立され、様々なプログラムを推進してきたことを紹介しました。その一つとして日系人を招へいし、「多文化主義」、「現代アメリカ社会」、「アジア系アメリカ人の多様性」等のテーマでシンポジウムを実施してきたが、回を重ねるごとにネットワークが広がってきており、今後も、全米日系人博物館との全面的パートナーシップのもと交流を進めていきたいと述べました。

続くディスカッションでは、モデレータのグレン・S・フクシマ氏から、今後、日本と日系アメリカ人の交流強化に向けて、どのような具体的取り組みが考えられるか、との問いかけがあり、パネリストからは、奨学金プログラムの創設、将来のリーダー層の交流や、若者層に対する働きかけ、オーラルヒストリーによる史実の保存と伝承、などの具体的な提案がなされるなど、活発な討議が行なわれました。

以上